

CODE 海外災害援助市民センター
2012 年度 事業計画

【海外災害(地)への救援活動事業】

| | |
|------------------------|---|
| 事業名 | アフガニスタン救援プロジェクト ～ぶどう畑再生支援事業～ |
| 実施日時 | 2003 年～ |
| 実施場所 | アフガニスタン・カブール州ミール・パチャコット地域 |
| 受益対象者の 範囲及び予定 人数 | ミール・パチャコット地域の 4 村。人口は約 15,000 人、1560 世帯。 これまで本事業の融資で直接裨益した農業従事者は 519 世帯(2012 年 3 月末現在)。 |
| 実施内容 | <p>●これまでの経緯</p> <p>2003 年から上記 4 村でコーポラティブシューラ(ぶどう生産者協同組合)を立ち上げ、対象 288 世帯に日本円で 300 万円を貸しつけスタート。2007 年から 2009 年の 3 年間は JICA 草の根技術協力事業(地域提案型)に採択され、日本における農業研修事業を行った。その成果は同 4 村でも着実に現れ、これまでに比べて収穫増も見られるようになってきた。</p> <p>●2012 年の計画</p> <p>2011 年度 3 月に現地から 6 つのプロジェクト提案があった。現地で詳しい提案書と予算を作成中の段階であるが、概要を見たところ、現地の優先順位と CODE 理事会の感覚にはギャップがあった。あらためて現地からの詳しい計画に基づいて理事会で協議し、支援を検討する。最終的には現地の意向にそうことを目指す。現地からの提案は、優先順に下記の通り。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 外部市場(主にインド)開拓のための、協同組合員の現地派遣 ② ぶどうを長期保存し、品薄時に供給するための冷蔵室の設置 ③ ぶどう農家への農機具提供 ④ 女性の生計確立のための職業訓練(刺繍と洋裁) ⑤ 女性向けの小規模養鶏場の立ち上げ ⑥ 自然災害と法整備への、市民の意識向上(セミナー) |

| | |
|------------------------|---|
| 事業名 | ハイチ地震救援プロジェクト |
| 実施日時 | 2010 年 1 月 13 日から |
| 実施場所 | ハイチ共和国レオガン |
| 受益対象者の 範囲及び予定 人数 | ラプレン、レオガン周辺住民 |
| 実施内容 | <p>●これまでの経緯</p> <p>①クワウテモックさんの派遣</p> <p>地震直後から CODE 海外研究員(メキシコ)のクワウテモックさんを派遣し、レオガンを中心に支援プロジェクト立案のための調査に入る。海外からの NGO と地元の医師などで Ayuda a Haiti というネットワークを立ち上げ、モバイルクリニックやコミュニティ FM のサポー</p> |

トを幅広く展開した。やがてクワウテモックさんからは、複数の教会に保護されている孤児のための支援やレオガン地域のコミュニティセンター建設のための土地の購入支援を提案してきたものの、内容が不十分であったことから 2012 年 2 月末に新たな提案がなされた。詳細と実現可能性について、追加の情報を収集している。提案は次の通りで、いずれもレオガンが対象地である。

・夫を亡くして一家の担い手となっている女性に向けたワークショップ。2 週間で 30 人が洗剤の作り方を学び、それを販売して生計を立てられるようにする。予算は約 36 万円。

・若い孤児に向けたワークショップ。2 週間で絵柄などを布にプリントする方法を学び、生計手段確保を目指す。材料費を含めて予算は約 41 万円。

②ACSIS への支援

一方、2010 年 4 月にはラプレンを拠点に活動する被災者団体 ACSIS の緊急物資配布にも資金面から協力を行った。2010 年 9 月の野崎理事訪問時にも、代表のルシアンさんらと面会している。ACSIS は被災者の生業支援として露天商にチャレンジする女性起業家を中心にマイクロフィナンス事業をスタートさせた。このプログラムは、貧しい女性を対象に事業再建資金を貸し付けるもので、被災によって途切れた収入を回復し、生計の立て直しを支援しようとするものである。2011 年 1 月、約 128 万円(約 15,200 ドル)を送金し、ACSIS が 40 人の女性にそれぞれ用途指定で 300 米ドルを貸し付けた。計画では、半年で利子込み 360 米ドルを返済するというものであったが(年利 40%に相当)、実際は、返済ができない人が増えているとの報告を受けている。

③その他

ハイチで結核治療に取り組んで来た医師・須藤昭子さん(クリスト・ロア宣教修道女会シスター)と出会い、須藤さんがかかわる GEDDH という NGO の農業を支援する話が出ていた。しかし先方から辞退の申し入れがあったため一端白紙に戻した。

●2012 年の計画

上記の通り 2012 年にクワウテモックさんからレオガンにおける新たな事業提案がなされたが、有効性や実現可能性を確認する必要がある。また、これまで土地所有権等の問題も絡んで具体化しなかったコミュニティセンター等の建設計画を再検討するためにも、あらためて現地に行く必要が出てきた。これについては、再びシスター須藤さんからの情報収集や連携も模索する。同時に、ACSIS によるラプレンのマイクロフィナンス事業が行き詰まっている感があるため、モニターの必要がある。上半期に理事あるいは事務局から現地派遣を行う。

※ACSIS について

CODE のアドバイスのもと、大阪府富田林在住のハイチ人ディオジェン・ピエールマリさんの故郷ラプレンで生まれた NGO。友人のルシアンさんらが運営。彼ら自身も被災者であるが、震災直後から物資支援などの活動を行ってきた。クワウテモックさんも NGO 運営のアドバイスに行ったことがある。2011 年 9 月には国際 NGO「CIVICUS(World Alliance for

| | |
|--|--|
| | Citizenship)」主催のモントリオールでの国際会合において、多くの NGO や政治関係者らに ACSIS の活動を紹介するなど、外国の支援関係者とのネットワークも広がっている。 |
|--|--|

| | |
|----------------|---|
| 事業名(継続) | チリ地震・津波救援プロジェクト |
| 実施日時 | 2009年2月27日～継続中 |
| 実施場所 | チリ国コンセプション |
| 受益対象者の範囲及び予定人数 | 未定 |
| 実施内容 | これまでの報告の通り、特定非営利活動法人災害人道医療支援会(HuMA、東京都世田谷区)への支援を決定したものの、チリ政府筋からの救援依頼がなかったため、全額保留となっている。2011年度計画では、東日本大震災を受け、同じく津波の被災地であるチリとの人的交流(チリの被災者を呼ぶ等)を通じた防災プログラムなどの可能性を模索したが、まだ実施には至っていない。今年度も可能性を探っていく。 |

| | |
|----------------|--|
| 事業名 | ジャワ島中部地震救援ウォータープロジェクト (通称:呼び水プロジェクト) |
| 実施日時 | ジャワ島中部地震救援プロジェクトは2006年5月27日開始。 呼び水プロジェクトは2008年4月1日から継続。 |
| 実施場所 | インドネシア・ジョグジャカルタ特別州グヌキドル県パンガン郡ギリセカール村落内のナワンガン集落 |
| 受益対象者の範囲及び予定人数 | 直接的な対象者はナワンガン集落の住民約130名だが、モデルケースの確立により、自然条件・経済的条件の類似した周辺住民(ギリセカール村7000名、パンガン郡2万7000名)が裨益すると考えられる。 |
| 実施内容 | <p>●これまでの経緯</p> <p>2008年1月、「呼び水プロジェクト」として、ナワンガン集落において水道管敷設を支援(同4月施工完了)。これを機に、集落の人々は水と農業の問題に向き合い、集落が抱える貧困・若者の都市への流出についても住民自ら取り組みはじめた(例えば、浮いた水代をプールしてマイクロファイナンスを実施)。</p> <p>CODEはこの集落の、本格的に持続可能な暮らし確保に向けて「JICA 草の根技術協力事業(支援型)」への申請を追求してきた。案件形成のための事前調査として2010年7月、村井事務局長と岡本が現地を訪れ、その後もナワンガン集落住民、カウンターパートとなるデュタ・ワチャナ・キリスト教大学との話し合いを重ねてきた。併せて神戸学院大学浅野壽夫教授担当の授業で毎年実施している同集落へのフィールド研修にも同行し、追求してきた。しかし2011年度後半に、カウンターパートとの連携を担っていた現地キーパーソンがプロジェクトに密に関われないことになった。よって同案件に対する住民のモチベーションを高めたり計画をとりまとめることが困難となり、住民は「今の生計手段の延長でできることから始めたい」との結論に至った。従って、JICAへの申請は行わないこととなった。ただし、あらためて集落からの具体的な提案があれば、引き続きCODEは会員への寄付呼び</p> |

| | |
|--|---|
| | <p>かけや助成金申請など、協力を惜しまない旨を伝えた。</p> <p>●2012年の計画</p> <p>2011年12月、ナワンガン集落より新たな提案がなされたが、現地とCODEがしっかりと連絡の取れる現地キーパーソン不在という問題が解決しないと判断し、現在は保留としている。また、提案自体の懸念点についても集落に問い合わせたところ、彼ら自身も再検討するに至った。しかし今後、懸念点をクリアにし、実現可能性が確認できれば支援のための協議に入る。</p> <p><ナワンガン集落からの提案></p> <p>【集落からの提案内容】収入創出のため、グループによる共同経営で肉牛の繁殖と飼育を行う。その初動資金の支援をCODEに求める。</p> <p>【CODEの懸念】集落自身によると、これは乾季のエサ不足とその調達コストの高さから難しいとされてきた事業。安価なエサを確保・生産できる見込みが無いままこれを開始することはリスクが高い。</p> |
|--|---|

| | |
|----------------|---|
| 事業名 | 中国・四川省大地震救援プロジェクト |
| 実施日時 | 2008年5月13日から |
| 実施場所 | 地震被災地域 |
| 受益対象者の範囲及び予定人数 | 光明村及び周辺住民 |
| 実施内容 | <p>●これまでの経緯</p> <p>地震発生後最初に実施しようとした支援プロジェクト「総合活動センター」(医療施設等を含む)建設は、中国政府によって建設されることになったため、村の方々と協議の上この計画を変更し、「老年活動センター」の建設に変更、決定した。2010年11月に、芹田代表が出席し同センター建設のための調印式が行われ、2011年9月、無事完成した。</p> <p>●2012年度の計画:</p> <p>完成した「老年活動センター」が機能するための内部の設備を揃えるとともに、同センター内に設けた「震災展示室」を完成させる。今後は、同センターでの活動が充実するとともに、自立した運営ができることを期待しながらも、自立に向けた事業提案があれば、その都度協議し、必要であれば支援を検討する。(例えば、「農家楽事業」の実施など)</p> |

| | |
|--------------|-----------------------------------|
| 事業名 | 中国・青海省地震救援プロジェクト |
| 実施日時 | 2010年4月14日から |
| 実施場所 | 中国青海省玉樹県の被災地 |
| 受益対象者の範囲及び予定 | 青海省540万人、玉樹チベット族自治州人口28万人、玉樹県10万人 |

| | |
|------|---|
| 人数 | |
| 実施内容 | <p>●これまでの経緯:</p> <p>四川省に滞在中であったスタッフ吉椿を2度青海省に派遣し、同省玉樹で最大かつ最も古い NGO のひとつ「江源発展促進会(Snowland Service Group、SSG)」とのネットワークを築いた。並行して、青海省のラブ地域の僧院と連携して環境問題に取り組んでいるインドネシア人アーティスト、アラフマイアニ・フェイサルさんとも情報交換をしながら連携も模索してきた。具体的には、青海省での支援プロジェクトとしてこの地の暮らしにとって重要な家畜であるヤクを購入し、繁殖させ、後に換金動物として育てる事業「ヤク銀行」を実施することを追求してきた。</p> <p>●2012年度の計画:</p> <p>アラフマイアニさんからの情報も加え、「ヤク銀行」の実現のために継続して情報を収集する。この地は冬が長いため、現地での調査が難しいが、2012年度は5～6月頃に一度現地にスタッフを派遣してカウンターパートとの協議を行い、プロジェクトの可能性を再確認する。</p> <p>※アラフマイアニ・フェイサルさん</p> <p>インドネシア・ジョグジャカルタ特別州在住のアーティスト。1980年代よりアジア、オーストラリア、ヨーロッパ、アメリカなどでパフォーマンス・アートを中心とする作品を発表、数多くの国際的芸術祭に招待される。アートを利用したコミュニティ開発や復興支援、異文化理解活動にも取り組み、2006年5月のジャワ島中部地震後、イスラーム寄宿学校において環境教育や代替燃料づくり活動を行う。最近ではアルゼンチン、中国、オーストラリアなどにおいて、コミュニティの課題を人々自身が発見して解決を図ったりアドボカシーを行うワークショップ型アート「フラッグ・プロジェクト」のファシリテーターとして活躍中。2010年4月の青海省地震後、被災地玉樹に入って調査を行い僧院とネットワークを築く。CODEとはインドネシア・ジャワ島中部地震のカウンターパートを通じて出会い、神戸の事務局を訪問して下さった。</p> |

| | |
|----------------|---|
| 事業名(新規) | インドネシア・ムラピ火山救援プロジェクト |
| 実施日時 | 2010年12月10日から |
| 実施場所 | インドネシア・ジョグジャカルタ州のムラピ火山噴火による被災地 |
| 受益対象者の範囲及び予定人数 | 未定 |
| 実施内容 | <p>●これまでの経緯</p> <p>この火山で被害を受けたジョグジャカルタ特別州、中部ジャワ州は2006年5月のジャワ島中部地震の被災地でもあり、カウンターパートのエコ・プラウトさんや、エコさんを通して知り合ったアーティストのアラフマイアニ・フェイサルさんと連絡をとって情報収集にあたってきた。CODEはアラフマイアニさんから紹介を受けた地元団体「Milas」による被災コミュニティへの農業研修支援をサポートする方向で話を進めていたが、現地インターネット状況等による接触の取りづらさから、プロジェクト内容の確認、今後のフォローやモニタリングが困難と考え、再度、別の支援策を考え直すこととなった。</p> <p>●2012年度の計画</p> <p>同被災地にてコミュニティラジオを通じた防災活動を支援している特定非営利活動法人エフエムわいわい(FM わいわい、神戸市長田区)に全額を委託する。FM わいわいは、</p> |

| | |
|--|--|
| | CODE 理事の吉富志津代さんが専務理事を努めるコミュニティラジオ局であり、吉富理事を通じて経過をモニタリングする。 |
|--|--|

| | |
|----------------|---|
| 事業名(新) | 東日本大震災救援プロジェクト |
| 実施日時 | 2010年3月14日から |
| 実施場所 | 東日本大震災被災地 |
| 受益対象者の範囲及び予定人数 | |
| 実施内容 | <p>●これまでの経緯</p> <p>CODE は、東日本大災害発生後いち早く東日本支援を表明し、支援金を集めた。CODE に集まった支援金を、連携している被災地NGO協働センターを通して被災地支援に活用して貰うとともに、2011年4月1日から半年間同NGOにスタッフ二人を出向させた。</p> <p>金沢大学と連携し、2012年3月末に中国四川省から被災者3名、カウンターパート1名を招聘し、東日本の被災地への訪問と交流を行い、帰国前日にはCODE関係者などと交流会を行う。</p> <p>●2012年度の計画:</p> <p>前年度末に中国四川省地震の被災者と東日本大震災での被災者との交流を行い、国境を越えて被災者同士が交流し有意義な出会いを認識したことから、今後も被災地の状況に応じて必要であれば、他の被災地の被災者との交流も企画する(例えばチリ)。</p> |

【人材育成事業】

| | |
|----------------|---|
| 事業名 | 世代交代に伴う事務局体制の充実化 |
| 実施日時 | 2011年4月より |
| 実施場所 | CODE 事務所 |
| 受益対象者の範囲及び予定人数 | 数名 |
| 実施内容 | 今年度より、吉椿雅道を事務局次長として内外に発信し、次期事務局長としての体制を築く。併せて事務局体制の充実を図り、より充実した活動を実施することを目指す。 |
| 備考 | アルバイト上野智彦君の人件費と研修費を計上する。 |

| | |
|----------------|--|
| 事業名 | NGOことはじめ |
| 実施日時 | 2012年4月より |
| 実施場所 | CODE 事務所 |
| 受益対象者の範囲及び予定人数 | 当NGOスタッフはじめ、神戸大学、神戸学院大学、兵庫県立大学、神戸松蔭女子学院大学、舞子高校などの学生など10数名。 |

| | |
|------|---|
| 実施内容 | 当 NGO 事務局スタッフを中心に、上記各大学や高校生をも対象として受益対象者を中心に「NGOことはじめ」として、CODE が行ってきた過去の海外災害救援事例を寺子屋形式で学ぶ。なおこの研修講座を通して、前年度東日本支援に力を集中させるために休止していた「ボランティアの日」「スタッフのスキルアップ」なども積極的に復活させる。 |
| 備考 | 若干の茶菓子代を計上。会費を徴収して行う場合は計上しない。 |

【災害関連情報の収集及び発信事業】

| | |
|----------------|--|
| 事業名 | 災害情報サイト(CODE World Voice)の運営 |
| 実施日時 | 随時(2002年からの継続事業) |
| 実施場所 | SOHO形式や当センターなど |
| 受益対象者の範囲及び予定人数 | 不特定多数の災害情報を得ている人たちすべて |
| 実施内容 | 当初より「被災地の市民の暮らしを知ることを通じて、防災や平和への意識向上を図る」ことが目的である。CODE のプロジェクト地をよりよく知ってもらうためや災害時の情報収集のために、随時 Reliefweb(UNOCHA 運営の災害情報掲示板)やその他のメディアからの翻訳を CODE ウェブサイトで紹介してきた。東日本大震災においてはこれまで CODE が協働してきた様々な被災地からのメッセージを発信することもできた。今年度はプロジェクトの進捗や災害発生の有無にかかわらず、月1本以上は定期的に発信し、日本のニュースでは得にくい情報への一般の関心を高める。 |

【ネットワーク構築事業】

| | |
|----------------|---|
| 事業名 | (関係機関からの受託事業)神戸学院大学「防災・社会貢献ユニット」の前期授業企画および講師派遣 |
| 実施日時 | 4月から7月まで、毎週木曜日第3限 |
| 実施場所 | 神戸学院大学ポートアイランドキャンパス |
| 受益対象者の範囲及び予定人数 | 約40名 |
| 実施内容 | CODE とのコラボレーション事業という位置付けで、5年目となる本年度も継続して神戸学院大学防災・社会貢献ユニットへの講師派遣を下記のスケジュールと講師陣で実施する。 <内容> 第1回(4/12・木) ガイダンス(浅野、村井) 第2回(4/19・木) CODE 海外災害援助市民センターが担う社会貢献について(吉椿雅道) 第3回(4/26・木) 東日本大震災とジェンダー(斉藤容子) 第4回(5/10・木) 東日本大震災と足湯ボランティア(藤室玲治) 第5回(5/17・木) ハイチ地震から学ぶ(村井) 第6回(5/24・木) アフガニスタンと開発援助(村井) |

| | |
|--|---|
| | 第7回(5/31・木) 災害復興から持続可能な開発プロジェクト (インドネシア・ジョグジャカルタでの取り組み)(岡本千明) 第8回(6/7・木) 東日本大震災の教訓(村井) 第9回(6/14・木) 災害時における地域力(織田峰彦) 第10回(6/21・木) 災害復興と行政の役割(斉藤富雄) 第11回(6/28・木) 地方分権と被災者主体、市民主体とは?(松本誠) 第12回(7/5・木) 農業と持続可能な社会(本野一郎) 第13回(7/12・木) 減災サイクルともう一つの社会(村井) 第14回(7/19・木) 振り返り(浅野・村井) 第15回(7/21・土) まとめ(浅野、村井) |
|--|---|

| | |
|------------------------|---------------------------------|
| 事業名 | (関係機関からの受託事業)関西 NGO 協議会からの講師派遣 |
| 実施日時 | 随時 |
| 実施場所 | |
| 受益対象者の 範囲及び予定 人数 | |
| 実施内容 | 前年度と同様、継続して行う。 * 帝塚山学院大学(吉椿) |

| | |
|------------------------|--|
| 事業名 | (関係機関からの受託事業)JICA の支援委員委嘱受諾(新規) |
| 実施日時 | 随時 |
| 実施場所 | |
| 受益対象者の 範囲及び予定 人数 | |
| 実施内容 | JICA「アフリカの角干ばつ対応事業」のための国内支援委員会における「コミュニティ防災」分野の委員として、村井理事・事務局長が委嘱を受けた。 |

| | |
|------------------------|---|
| 事業名 | (関係団体への正会員加盟やシンポジウムなどの実行委員会あるいは運営委員会への参加)関西 NGO 協議会理事会に参加 |
| 実施日時 | 随時 |
| 実施場所 | |
| 受益対象者の 範囲及び予定 人数 | |
| 実施内容 | 前年度と同様、継続して行う。 |

| | |
|--|---------------------------|
| | * 関西 NGO 協議会総会は 5/26 開催予定 |
|--|---------------------------|

【「市民による災害救援」に関する調査・研究事業】

| | |
|------------------------|---|
| 事業名 | CODE 寺子屋学習会 |
| 実施日時 | 随時 |
| 実施場所 | CODE 事務所 |
| 受益対象者の 範囲及び予定 人数 | 役員、事務局員、CODE 会員、関係者、一般 |
| 実施内容 | 世代交代に伴う人材育成事業として、「CODE 寺子屋～今、若者に伝える、17 年間の救援思想～」を実施する。対象は若者を中心とし、村井事務局長ほか担当者より、CODE が行ってきた復興支援のケーススタディから、理念や支援の考え方を学ぶ。 その他のテーマでも前年度と同様、継続して行う。 |

【「市民による災害救援」に関する啓発及び広報事業】

| | |
|------------------------|---------------------|
| 事業名 | 賛助会員の拡大 |
| 実施日時 | 随時 |
| 実施場所 | CODE 事務所、その他 |
| 受益対象者の 範囲及び予定 人数 | 不特定多数 |
| 実施内容 | 新規賛助会員 10 名の増員を目指す。 |

| | |
|------------------------|-------------------|
| 事業名 | 救援プロジェクト報告会及び講師派遣 |
| 実施日時 | 随時 |
| 実施場所 | 全国各地 |
| 受益対象者の 範囲及び予定 人数 | 不特定多数 |
| 実施内容 | 前年度と同様、継続して行う。 |

| | |
|--------|--|
| 事業名 | 機関誌及びインターネットによる情報発信 |
| 実施日時 | 機関紙は年 3 回発行、 メーリングリスト、インターネットは随時発信(積極的にツイッターの利用を行う) |
| 実施場所 | CODE 事務所 |
| 受益対象者の | 機関紙は全国各地 700 人/団体 |

| | |
|--------------|----------------|
| 範囲及び予定 人数 | インターネットは不特定多数 |
| 実施内容 | 前年度と同様、継続して行う。 |

【その他本会の目的達成の為に必要な事業】

| | |
|------------------------|---|
| 事業名 | CODE AID 設立のための情報収集及び研究 |
| 実施日時 | 随時 |
| 実施場所 | CODE 事務所 |
| 受益対象者の 範囲及び予定 人数 | |
| 実施内容 | CODE10周年を機に、「CODE AID」設立に向けて、設立準備委員会を設ける。併せて認定NPO 法人格の取得を目指す。これに関し、外部より正会員の青田さんおよび青田さんの友人鐘森さんにサポートをして頂く。なお、同委員会の座長は芹田代表理事が兼務する。 |

| | |
|------------------------|------------------------------|
| 事業名 | CODE スタッフへの奨学金制度の継続について |
| 実施日時 | 随時 |
| 実施場所 | |
| 受益対象者の 範囲及び予定 人数 | 直接裨益するものは若干名 |
| 実施内容 | 前年度と同様、継続して行う。残高は 269,000 円。 |

| | |
|------------------------|---|
| 事業名 | CODE 設立 10 周年記念事業について |
| 実施日時 | 2013 年 2 月 |
| 実施場所 | 神戸市 |
| 受益対象者の 範囲及び予定 人数 | CODE 関係者 一般にも広く呼びかける |
| 実施内容 | 10 周年記念事業担当理事黒田を中心に、松本理事および事務局スタッフも加わって企画する。また海外からも招聘することを検討(招聘予定:ハイチ、アフガニスタン、四川)。「ひょうご安全の日推進事業」の助成金を申請予定。 開催予定日: 2013 年 2 月 2 日(土) 開催予定場所: 未定 |